

第15回学術コミュニケーションセミナー（月刊JPCOAR）

実務事例紹介(1)

神戸大学附属図書館 鈴木雅子

A solid green horizontal bar spanning the width of the slide, located at the bottom.

JPCOARさまからの依頼

- 管理職としての立場からリポジトリ運営について
- リポジトリやオープンアクセス・オープンサイエンスを担う図書館の管理職としてどのような点に注意を向けて仕事をしているか
- 可能であれば現在の運営の話
- リポジトリ黎明期からの経験を踏まえて、
「今後の展望」

実務事例紹介..だよね



機関リポジトリとの関わり

2004-2005年	北海道大学	HUSCAP
2007-2009年	小樽商科大学	Barrel
2010年	北海道大学	HUSCAP
2011-2013年	旭川医科大学	AMCoR
2014-2016年	静岡大学	SURE
2019年	国立情報学研究所	機関リポジトリ
2020-2021年	名古屋大学	NAGOYA Repository
2022年	神戸大学	Kernel

2004-2005年 北海道大学HUSCAP

国立情報学研究所メタデータ・データベース共同構築事業

学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト

トップページ

目次

DSpace及びEPrintsに関する技術資料

参考文献・関連資料

活動記録

NII-IRPワークショップ
(2004.6.14-19 東京・長野)

中間報告会 (2004.9.7 東京)

SPARC & SPARC/Europe
"Institutional Repositories :
The Next Stage" 出版
(2004.11.18-19 ワシントン
DC)

スティーブン・ハーナッド氏と
の懇談会 (2004.11.24-25 東京・神奈川)

報告会 (2005.2.10 東京)

NII-IRP報告書

スティーブン・ハーナッド氏との懇談会

学術機関リポジトリの構築推進に係る知見を深めることを目的とし、平成16年11月24日(水)に学術機関リポジトリ及びオープンアクセス運動に造詣の深いスティーブン・ハーナッド氏との情報交換・意見交換を行いました。併せて平成16年11月25日(木)には氏を講師とする第6回図書館総合展フォーラム『学術コミュニケーション最先端：オープンアクセスとセルフアーカイブ』(於パシフィコ横浜(神奈川県横浜市))を聴講しました。

資料

- Stevan Harnad, 懇談会及び図書館総合展フォーラム発表資料 (PDF 9.2MB)
- 国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課, National Portal to University Institutional Repositories (PDF 56KB)

スティーブン・ハーナッド氏について

スティーブン・ハーナッド <http://www.ecs.soton.ac.uk/harnad> はハンガリーに生まれ、学部教育をマギル大学で、大学院教育をプリンストン大学で受け、現在、モントリオールのケベック大学で認知科学のカナダ政府研究教授(Canada Research Chair)の称号を有している。研究の内容は、カテゴリー化、コミュニケーションおよび認知である。Behavioral and Brain Sciences誌 <http://www.bbsonline.org/> (これは、Cambridge University Pressが刊行する紙媒体の雑誌である)。また、Psychology誌 <http://psycprits.ecs.soton.ac.uk/> (こちらは、アメリカ心理学会が支援する電子ジャーナルである)およびThe CogPrints Electronic Preprint Archive in The Cognitive Sciences <http://cogprints.ecs.soton.ac.uk/> の創設者であり、編集人であり、また、the Society for Philosophy and Psychologyの元会長である。150本以上の刊行物の著者または投稿者であり、そのなかには次のような著作等が含まれる。Origins and Evolution of Language and Speech「言語の起源と進化」(NY Acad Sci 1976)、Lateralization in the Nervous System「神経系の機能分化」(Acad Pr 1977)、Peer Commentary on Peer Review: A case Study in Scientific Quality

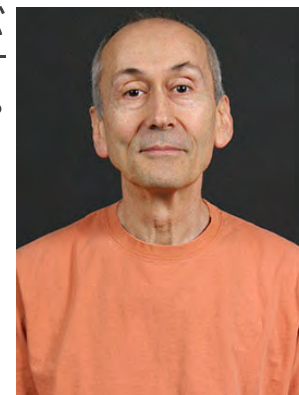
システム管理系の係員

NIIのプロジェクトのお世話になり、
無料ソフトDSpaceでリポジトリ構築

スティーブン・ハーナッド氏の講演を
聞き衝撃

◦ 機関リポジトリはEJ論文が
読めない問題への対抗策。
研究者が自著論文をオープンにすれば解決

- ◆ 出版社(エルゼビアも) OK
- ◆ 研究者は勿論OK
- ◆ 後は図書館がやるだけだ!



<https://professeurs.uqam.ca/professeur/harnad.stevan/>

2004-2005年 北海道大学HUSCAP

学術情報の発信に関するアンケート調査（集計）

附属図書館では、教員各位のご理解・ご協力のもとに電子ジャーナル・各種DBの導入をはじめとする学術情報の利用環境整備に努めているところですが、近年、情報受信の環境整備だけでなく、大学が大学自身の研究成果等を積極的に収集し、広く社会に発信してゆく体制についても強く求められるようになってきました。科学技術・学術審議会が1002年3月に公表した『学術情報の流通基盤の充実について（審議のまとめ）』の中でも、附属図書館を中心とした情報関連組織の連携による統一的な発信体制の確立が各大学に要請されています。（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu2/toushin/020401.htm）

附属図書館では、この要請に対する取り組みの一環として、大学等がその機関内で生産された学術的学術情報を蓄積・保存し、効果的に発信するシステムとして注目されています「学術機関リポジトリ（電子保存庫）」システムの導入における有効性の検討を進めています。

このたび、学内の学術情報の電子化とその発信に関する教員の方々の意欲やご意見を伺い今後の検討の参考に資するため、本学所属の助手以上の教員全員を対象として、下記の通りアンケートを実施させていただきます。

調査期間 平成16年11月29日～12月10日

調査対象 本学全教員（助手以上の現員 2142名）

回収枚数 466枚（ほか研究員、院生・学生・研究生等 42枚）12/20現在

回収率 22%

アンケート調査結果の概要は下記の通りです。各調査項目とその集計値については、[次のページ](#)（PDFファイル 14KB）をご覧ください。

【設問1】作成または作成に携わった学術的学術情報をお持ちですか？それはWeb上で公開されていますか？

70%以上の336人の方が電子化された学術情報を持っているという結果であった。「商業誌・学会誌に掲載された論文」は「外部のサイトから公開している」場合が最も多いのに対し、他の学術情報は「公開していない」割合が最も高くなっている。そのデータ形式は、77%がPDFで、次いでHTMLとMS Wordが20%、PowerPointが17%と続いている。

【設問2】オープンアクセスの考え方についてどう思われますか？

11%の方が「賛同しすでに実践している」という回答であった。「賛同するが実践はしていない」が54%で最も多く、「機会があれば実践したい」26%と合わせると、91%の方がオープンアクセスの意義を認めている。

【設問3】学術機関リポジトリが構築された場合、ご自身の学術情報を登録して情報発信することについてどう思われますか？

「賛同するので登録したい」が70%、「賛同するが登録したくない」が14%、「賛同できない」が3%という結果であった。残りの13%の「その他」の意見は、そのうち約半数が、著作権問題がクリアなこと、負担が軽いこと等の条件付きで登録したいという意見、40%が現時点では判断できないという意見、10%が否定的な意見であった。

システム管理系の係員

当時の課長から言われたこと1つ
「学内アンケートやろう」

<https://www.lib.hokudai.ac.jp/item/enq/kekka.html>

- OAの意義を認める方多数、リポジトリで情報発信したい方多数 → 進める根拠
- OAの状況（エルゼビアも認めている等）や図書館がこれからやろうとしている事を広報できた
- ご意見伺うために連絡して良い

体制：係長1係員1+WG



2004-2005年 北海道大学HUSCAP



全国のリポジトリ担当者間で
情報共有、切磋琢磨

- 前頁の学内アンケートで連絡しても良いと言ってくれた先生に片っ端からアタック
 - 名称、キャラクター、ポスター、グッズ、規程類等の作成
 - 説明会
 - 学術情報流通の世界を「寸劇」で説明（サイエンスカフェ）
 - 登録した論文の出版社条件を蓄積
- 体制：係長1係員1+契約職員2

余談：2006年 HUSCAP園芸部



祝HUSCAP収録文献50000件！ (July, 2016)



2006年4月 >>

日 月 火 水 木 金 土

2006年04月

2006年04月27日

星野先生講義

私たちがこっそりハスカップ先生と呼んでいる、北方生物園フィールド科学センターからのハスカップの育て方を教えてもらいに行ってきました。実らせるには、すね。がんばろー、園芸部！



x822gaz at 20:52 | [Permalink](#) | [Comments\(1\)](#) | [Trackback](#)



2007-2009年 小樽商科大学Barrel

小樽商科大学学術成果コレクション
Otaru University of Commerce
Academic Collections

Barrel

小樽商科大学
小樽商科大学附属図書館
小樽商科大学研究者総覧

統計

Q: 登録3100件目の論文「CSRと経営戦略：CSRと企業業績に関する実証分析から」は、どのような内容ですか？

大まかに二つのパートに分かれています。前半では、近年、実際のビジネスの現場・学術研究分野を問わず大いに注目されているものの、曖昧でよくわからないCSRの概念を自分なりに整理した上で、CSRを経営戦略の観点から捉えるためのフレームワークの一つを提示しています。経営戦略とは、簡単に言えば「企業が経営を行う上での目的の決定とそれを実現するためのシナリオ・方針・設計図」のことなのですが、戦略が成功するためには、大きく分けて企業の外部環境に向けての条件と内部環境に向けての条件の二つが必要になります。一側面、前者を市場における企業の位置づけという意味

来年から私を指導教員として、中国の留学生の方から研究生の申し込みがありました。Barrelで私の論文を読んで申し込みをしてきたとのこと。Barrelがなければこういうことも起こらなかったかもしれません。人と人をつなげるという意味でもよいシステムだと思います。

参考調査係長（雑誌ILL貴重書等担当）

リポジトリは所属教員の論文をより多くの人に見てもらうためのサービス

- 北大の先生がサービスを受け、樽商の先生は受けられないのはおかしい

NIIのCSIプロジェクトのお世話になり、

- DSpaceの外注構築、研究者ページ
- すごい量の紀要を外注電子化して公開
- 登録100件ごとに記念インタビュー
※公開論文を見て研究生として来た学生も

体制：係長3係員2による担当者制

- 呼びかけからファイルを貰って登録まで

★特徴1: 130名で2,383件
これは、北大(教員2000人)に換算すると...36,662件
京大(教員3000人)に換算すると...54,992件
東大(教員4000人)に換算すると...73,323件

★特徴2: 1年ちょっとで2,383件
H19.4棟計開始 H19.11試験公開 H20.3正式公開

★特徴3: 85%の教員の論文掲載

★特徴4: 成長し続けています!

★特徴5: 教員と連携した広報
収録100件ごとのインタビュー

これは、北大(教員2000人)に換算すると...36,662件
京大(教員3000人)に換算すると...54,992件
東大(教員4000人)に換算すると...73,323件

H19.4検討開始 H19.11試験公開 H20.3正式公開

★特徴4・成長し、結んでいる

★特徴5: 教員と連携した広報

一部を紹介します

も多岐な文芸と探偵・文芸で流通しているものだから、そういったものの開口が広くなるといふことについて有意義だと思えます。

Google Scholar を使っていますが、Google が提供している PDF ファイルが見つかるかと図書館で写真撮影を依頼していただくこともないので嬉しいし、その意味でも Barrell は本当に手軽で便利だと思います。

また、アントン・ブレマー研究専攻会でもされた Barrell の説明を聞いて、感心しました。小樽商大にこんな人があつたのか、という点と、それから、ナレッジ・フィッシャー（組織レベルで組織的知識創造を全体的にマネージする役割を持つ）という言葉がありますが、まさに Barrell さんが果たしている役割だと、改めて、学会・出版社との連絡、登録作業全般を行ってくださることも、助

されることが多いのですが、『商学討究』という名前の紀要に法律の論文が載っているとはなかなか思わないので、他大学の法学部にはほとんど所蔵されていないのではないのでしょうか。私の母校も

Barrellに公開されるようになると読者を意識して、書く方の姿勢に変化が生じることでしょう。独善的な論文は減るかもしれませんが(笑) 理系の分野ではネットによって迅速に最新の情報を手に入れられることが最大のメリットとなりますが、文系では蓄積された古い資料にあたることが重要なので、Barrell、古いものの方に選ばれて監査されるかが問題でしょう。

[illegible]

ダウンロード数を通知してくれるシステムがいいですね。自分の論文に

500件目

世の中には情報知りが多いので、厳しい指摘を受けるのではないかと恐れる面もあります。でもそのおかげで書くものに力が入ります。

多くの人が関心を持ってくれていると思うと励みになりますし・・・また、インターネットで簡単に検索でき、プリントアウトもできるのは大変助かります。外国にいてもすぐ論文を呼び出せるのでそこから、時代の先端を行っていきます。

最近では学生でもインターネットで資料を検索する人が増えているので、Barrellに載せることで学生に読んでもらえる可能性も多くなりまし、Web上で自分の論文をダウンロードする手軽に紹介できるのも嬉しいですね。

インターネット翻訳がさらに進めば、学術の国際交流に大いに貢献できることでしょう。

すばらしい企画だ
と思います。感心
しました。社会に
出て行って何か
する社会貢献も
ありますが、知的
貢献というのかな
知の社会貢献と
して、意味のある
プログラムだと思
います。学術情
報の流通を促進
する側面も画期
的だけれど、大学

論文というのは自己満足で書くものではないので、研究業績として公表して、Barrelのようなコレクションで公開していくのは当然のことだと思います。論文は公開することによりあるところの意見もあると聞きまして、研究者の成長の過程を公開することにもなりますので、有意義なことだと私の書いた論文については、せっかく書いたんだから、Barrelで公表して

ダウンロード数の多さに驚いています。ダウンロード数の詳細通知を見ると、同分野の研究者の所属する大学からダウンロードされていることがしばしばあります。同じ研究をしている研究者に論文を読んでもらえるのは嬉しいことです。かつては、同じ研究をしている人の論文を読むために有料のデータベースを検索していたのですが、今は無料のGoogle Scholarを検索するだけでBarrelのようなリポジトリで公開されている論文を読むことができるように

まずは、大変ありがたいことだと思います。私が研究するアメリカの出来は、ほとんどアメリカの文書です。アメリカで出た本や写真、雑誌は日本でも手に入りにくいので、民間の研究機関が出している報告書などは、重要と見出しながらも読んでいないのも、多々あります。海外へ赴き研究機関を訪問しては手に入ります。でも、実際に現場を見学しに行ったことがありません。でも、そこをまわってきまして、アメリカ主要の企業家のインタビューをしております。それを通じて、研究室に届かずにして文脈が手に入る、Barrelのような書があるのは本当に素晴らしいことだと思います。つまり、もう多くの書物と手に入ります。でも、それによってくれれば、大いに助かる。

こんなにアクセスされるとは初め思わなかった。誰も読まないと思っていた。毎月ダウンロードされているの吓了一跳。思った以上にインパクトがあるようですね。

1,000件目

Barrelのようなサイトは非常に便利だと思います。でも、他大学ではBarrelのようなサイトはまだあまり発達していないので、どこかへ自分たちでいこうという気持がなかなか芽生えなかった。あったとしても図書館にしか閉じ込められて、自分の大学でしか通算できないからしかたない(笑)。でも、他の先生もちょっとずつ自分たちが、ダウンロード数をもっと、通算してくれるのは助かりになります。

Barrelに対する意見というより、商大生の商業管理システムに対する希望ですが、業績一覧を様々な形式で何回提出しなくてはいいのかの手間がかかると思います。例えば新しく業績ができたとしても、どこか1箇所に出張しては自動的に一括で更新していただけるようになるというのはいかがでしょうか。

今、日本で起れていると思うことは、学術論文のインターネットで入手できるのが非常に少ないということです。英文系ですと、大方向の論文は本学でもエクスプレスで手配できますが、韓国などのWEBで検索できるような資料がないのは、軒の日本の論文が、日本に居ても図書館を通じては閲覧できないばかりに入手できないケースが多いです。著作権とかといういろいろな問題があると思いますが、ある程度は学術論文の情報の開放がなれないという点から、これは実質的に研究にとって大変な支障を、そういったものがBarrelに山積されていると断言できます。公衆提供ですから、その辺はどなたも認識していただきたいと思っております。

アクセス費、ダウンロード通知もしてくれるのがいいですね。私の研究はなぜリサーチの必要性があるのか、手厚い人に多いので来ていただいていいです。

この論文を書いたのは、図書館で一つ一つ地道に論文を読んでコピーしては読んでました。研究は論文を読まないといけないんですけど今はインターネットで論文が手に入るの、特に大変になりました。自分の論文いちいちコピーして学生に渡すのは大変なので、Buninを掲載...

2,000件目

「ぜひ、ぜひ活用してほしい方々です。ぜひ積極的に利用していただきたいと思います。」

学

この論文に関しては、既に筑波大学の同僚で、共同研究をされている先生が

古い文献や学内から見えてきたり、検索・閲覧ができるようになっていきます。今オンライン化されることは、とても意義があります。



Age Group	Number of People
13-17	10
18-24	20
25-34	30
35-44	40
45-54	50
55-64	60
65-74	70
75-84	80
85-94	90
95-104	100



つくるというか準備をしていた。でも、
人が大変なのではないかと少し
感じます。Barrellに実際に論
組み込む作業というのは大変
思いますが、Barrellに掲載され

お陰で多くの人に目を通して
きかけとなるので、ありがた
いと思います。

つになるのか見当もつかない
のですが、実際に多くの人にア
ッセルにまめとすることが分か
たのではないかと実感します

雑誌に載った論文を出版社とBarrellに掲載を許していないものがありますので、書いた論文をBarrellに掲載するのは難しいですが、できる範囲でできるが

います。大いに
います！最後に一
がんばれ、パレル。
パレル。われ
る。出版社

「ヘル！」(高頻度第1位記念インタビュー)

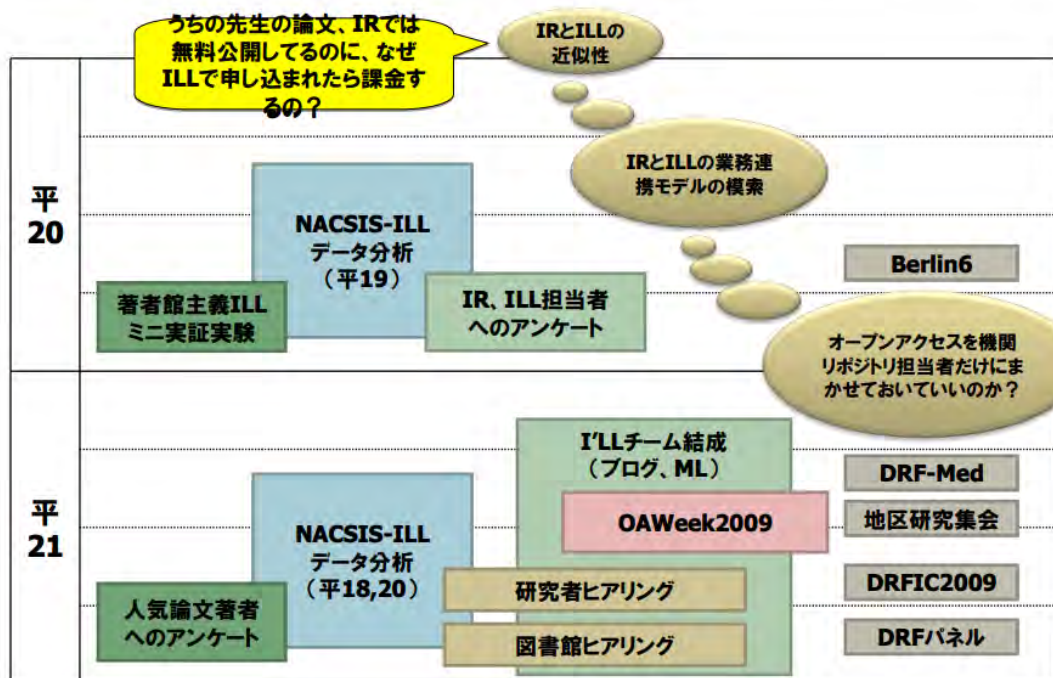
04月

Barrel
小桶原料本堂

2008-2009年 IRcuresILLプロジェクト

IRcuresILL

学術情報資源共有のための図書館間文献デリバリーサービスを機関リポジトリ構築によって代替するための教員・図書館連携方式の開発
小樽商科大学、北海道大学、千葉大学、金沢大学、大阪大学、広島大学



小樽商大の係長が主担当

ILLで求められる論文を機関リポジトリで公開していくのがよいのでは？



機関リポジトリの活動は、リポジトリ担当者だけに任せず、図書館員全体で担当した方が効果的では？

- ILL、メタデータ付与
- 教員が求めるサービス展開
- 学修支援、研究支援



2010年 北海道大学HUSCAP

システム管理係長

北大に戻ってきたら先生方が遠い…

- 「いいとも作戦」で先生方にインタビュー
- 5周年記念イベント

当時の部長の英断により担当を大幅拡大

- システム管理係がHUSCAP運用、統括
- 論文登録を各部局図書室が担当

体制：係長1係員2+各部局図書室職員！



2019年 国立情報学研究所機関リポジトリ



総務部企画課長（評価・広報・国際・大学院・研協・社連が範囲）

NIIにはリポジトリが無かった！

→ 研究支援部署の企画課で構築・サービスすることに

体制：課長1、企画係（事務系係長係員非常勤職員各1）でURAの協力を得てスモール構築、

専門教員・センター、コンテンツ課で自ら登録してもらう方式

2022年- 神戸大学 Kernel



研究者紹介 國谷紀良先生

この通信では、Kernel で論文を公開されている研究者をご紹介します。今回は國谷紀良先生（システム情報学研究所）です。

新型コロナウイルスが 2019 年度末に流行し始め、2 年半が過ぎました。新型コロナウイルスの感染状況の予測をほとんどの方がニュースなどで目にされたのではないのでしょうか？そのような予測をされた研究者の 1 人が國谷先生です。國谷先生のご専門は感染症流行の数理モデルで、数学と生物学が融合した数理生物学という応用数学に含まれる分野です。

インタビューでは研究を中心にお話を伺い、①先生のご経歴：抽象的な数学を学ばれていた國谷先生が数学を社会の中で実際に応用する分野を道路に選択された経緯、

②先生の研究内容や新型コロナウイルス流行で研究・研究分野にどのような変化があったのか？ ③研究に関するデータの入手や保管についてなどが話題にのぼりました。その他にも論文をオープンアクセスにされていることや図書館の利用についてもお聞きしました。

インタビューをさせて頂いたなかで、イタリアにあるトレント大学の図書館で國谷先生が本を読まれた話が印象に残りました。イタリア語は読めないけど、数式で内容がわかる。言語を跳び超える数学の抽象性が琴線に触れました。ぜひ、以下のページよりインタビュー全文をご覧ください。

インタビュー全文

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100476337>

Kernel で公開されている國谷先生の論文

https://da.lib.kobe-u.ac.jp/da/kernel/search/advanced/?mode=1&kywd1=A1008&con1=c_code_auidh

- オープンアクセス推進WG
- 各教員の論文発表状況を確認し登録を進める（著作権ポリシー調査等）
- Kernel通信の発行（教員インタビュー、統計、情勢紹介等） → 全学ポータル掲示板に

特集：ハゲタカジャーナル

本特集では、ハゲタカジャーナル/出版社（Predatory Journal/Publisher）をめぐる学術出版業界の動向について掘り下げました。

ハゲタカジャーナル/出版社に関する問題提起

電子ジャーナルで掲載論文をオープンアクセスにする「ゴールドオープンアクセス（Gold OA）」では、著者側が出版社に APC（Article Processing Charge；論文処理費用）を支払って公開するモデルが一般的です[1]。オープンアクセスの普及に伴い、APC の不当な取得を目的とした低品質な学術誌とされる「ハゲタカジャーナル」（捕食ジャーナル、相悪学術誌）[*1]およびその出版社である「ハゲタカ出版社」の問題が顕在化してきました。

2010 年にハゲタカジャーナル/出版社という用語で問題提起を行ったのは、米国コロラド大学デンバー校の図書館に（当時）勤務していた Jeffrey Beall 氏です[2]。Beall 氏はハゲタカ出版社を「著者支払型の論文出版モデルを、職業上の規範に反して悪用することで利益追求を図る出版社」と定義し、疑いがあるとしたジャーナル/出版社のリストを公表しました[*2]。大きな反響を呼んだ Beall 氏の調査を契機としてハゲタカジャーナル/出版社が国際的な問題として認知されるに至り、学術界では今日まで様々な検討/情報共有がなされてきています。

ハゲタカジャーナルの特徴

以下のような特徴を有する学術誌が、ハゲタカジャーナルと称される傾向にあります[2][3]。

・査読を全く、あるいはほとんど行わないため著しく短期間となる

それは大きい大学
やからできるんや

うちは人もそんな
におらんし…

(北大の鈴木に対して)



それは小さい大学
やからできるんや
な

(小樽商大の鈴木に対して)

各大学のカラーに合った方法で

- これまでなかった業務は、とにかく色々試すしかない。失敗こそ大事。
- 勉強より、とにかくやってみる。
- 「図書館の中から飛び出る」

「今後の展望」にかえて

- 機関リポジトリの役割

- 出版 → 自機関発行物の保存・公開

- 研究論文の公開 → 自機関研究者への研究支援

- 研究データの公開

どれだけ支援できている？

- 図書館の役割

- 図書館専門職の役割